

## 2023年度(令和5年度)十日町幼稚園自己評価

### 1、園の保育目標

キリスト教精神により愛と平和と人権を大切にした保育

1. キリスト教保育
2. 一人ひとりの育ちを大切にす保育
3. 生命の輝きを知る保育

大人の都合や価値観が優先され、これが良い教育だと錯覚されることが多い中、「遊ぶこと、甘えること、愛されること」など、本来子どもが最も必要としていることを大切にしています。今受ける愛が人生の輝きの源になる、これが私たちの保育です。

### 2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した園の評価の具体的な目標や計画

- ①子どもたちが受容的・応答的対応を受けて、安心して幼稚園での生活を送るようにする。
- ②礼拝や誕生会や日々の生活を通して、自己肯定感（自尊感情）を身につける。
- ③子ども自身が遊びや生きた体験学習を通して自発性・自主性を高める。
- ④ケンカなどのぶつかり合いや共通理解されたルールのある日々の生活を通して、友だちと共に遊び、生活することを喜び、主体的かつ意欲的に取り組む。
- ⑤発達段階をとらえ、見通しをもって保育する。
- ⑥保育者、栄養士、看護師、園長が、それぞれに連携して保育・運営していく。
- ⑦日々の生活を通して、子どもと保育者、保護者と保育者が信頼関係で結ばれること。
- ⑧食事への意欲を養い、共に食卓を囲む喜びを体験する。
- ⑨地域社会の中の保育園として、地域に開かれた保育園として地域住民との交流をより促進する。

### 3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	現 状 分 析
①子どもたちが受容的・応答的対応を受けて、安心して生活し、いきいきしているか	職員が一人ひとりの子どもたちの思い（言葉にできない思い）に耳を傾け受容的・応答的な関わりを通して子どもたちが園内で自分を表現し、安心して過ごせる場所になってきている。
②子どもたちの自己肯定感（自尊感情）が育っているか	安心して過ごせる園で、ありのままの自分を表現し、受けとめてもらう中で自己肯定感が育まれてきているが、中には不安から自信のなさ、否定的な考えになりやすい様子も見られる。
③子どもたちの遊びを通して自発性・自主性を発揮し、また保育者が子どもたちにとってよき援助者となりえているか	子どもたちが主体的に活動できるように環境を整えた中で乳児クラスから自発的に遊びに興味を持ち遊び込む様子が見られる。また子どもたちの遊びの広がりを見ながらその都度環境を見直しているが、限られた環境、異年齢交流もある中で素材、材料選び、時間帯の工夫が必要である。また冬季時期のすごしかたには工夫が必要である。
④子どもたちが日々の関わり合いの中で、友だちと共に過ごすことに喜び、主体的かつ意欲的に過ごしているか	乳児クラスから友だちと過ごす喜びを感じながら過ごさせている。安心できる環境の中で遊びを通して、友だちと気持ちを合わせ生き生きと過ごさせている。また異年齢交流（年中年長合同クラスも含め）の関わりで心を豊かに柔軟に育まれている様子が見られるようになってきている。
⑤発達段階をとらえ、見通しをもって保育しているか	発達には個人差があることを踏まえ、個々の育ちを理解し、一人ひとりの育ちについて、クラス内での話し合いを大切にしてきた。その中で見通しを持ち、個々にあった保育を進めていけるようになってきている。
⑥保育者、栄養士、看護師、園長が、それぞれに連携して保育・運営しているか	連携ができていると思う。（連絡・報告・相談）子どもたち一人ひとりの様子をそれぞれの専門的な立場から見解し、納得して同じ思いをもって保育、運営を行えるようになってきた。
⑦子どもと保育者、保護者と保育者の間に信頼関係が結ばれているか	受容的、応答的な関わりから子どもたちと深い信頼関係がむすばれている。口頭や連絡ノートを通して子どもたちの成長を保護者の方々と共に喜びあう良好な関係が結ばれてきている。保護者の方々の思い、不安なことを発信していただけるように日頃からのコミュニケーションを大切にしていきたいと思う。
⑧食事への意欲が育ち、共に食卓を囲む喜びを子どもたちが感じているか	食材に触れ、調理して変化を感じることで興味から食べたいという気持ちの変化が見られるようになってきた。また遊びからの繋がりや、友だちと楽しい気持ちのまま食事に迎えるようになってきている。給食室との連携もよく取れている。
⑨地域にある園として地域に開かれ、地域住民との交流が図られているか。	コロナウイルス感染症が5類になり制限が解除し、園の活動が少しずつ戻りつつある中、園内において様々な感染症が流行し施設訪問など出来ない行事もあった。しかし園庭遊び、散歩などを通して地域の方々と触れ合いを持つことができ、地域の方々にあたたかく見守っていただいていることを感じられた。

#### 4、評価項目の取組をより深めるために保育者がどのように対応するのか

評価項目		保育者がどのように対応するのか
①子どもたちがいきいきして過ごすために	⇒	子どもたち一人ひとりの思いに受容的・応答的な関わりを大切にして子どもたちが自分を表現し、安心して過ごす中で自分のイメージする遊びができるように環境を整えていく。
②子どもたちの自己肯定感（自尊感情）が育つために	⇒	子ども自身の思いをよく受け止め、ありのままの姿を受け入れ子どもの心に寄り添った肯定的な声をかけていく中で子ども自身が主体的な活動、遊びを通して小さな成功体験を積み重ね自信をつけていく。
③保育者が子どもたちにとってよき援助者となるために（環境設定や保育準備を含む）	⇒	子どもたち自身がしたい遊びを選んで遊び込むことができるように教材や遊具の準備、環境設定をしていく。また、上手くいく経験、上手くいかない経験をする中で次に繋げていけるように、保育者が日々の保育を振り返りながら環境の準備、提供をしていく。
④子どもたちが友だちと結びつき、主体的かつ意欲的に取り組むために	⇒	子ども一人ひとりの姿、子どもたち同士の関わりの様子を見ていく中で日々の遊び、行事を通して気持ちを合わせたり、思いをぶつけあったりしながら（時には保育者が仲立ち）感じたり、学んだり意欲的に取り組めるような環境を準備していく。
⑤発達段階をとらえ、見通しをもって保育するために	⇒	一人ひとりの子どもたちの発達段階、また特性を理解した上で日々の保育や行事について見直し、今の子どもたちにとってあっているのかを職員同士で確認し検討して保育を進めていく。
⑥保育者、栄養士、看護師、園長が、それぞれに連携して保育・運営するために	⇒	職員会議だけでなく、日頃から情報共有を大切にして専門性を生かし、丁寧な確認、伝達を行っていく。職員会議での課題について、出席しない職員からの発信も柔軟に取り入れ課題解決に向けていく。
⑦子どもと保育者、保護者と保育者の間に信頼関係が結ばれるために	⇒	子どもたちの思いに受容的・応答的な関わりを基本とし安心できる関係性を作る。保護者の方々のよき理解者となり、保護者の方々の思いに寄り添う中で、子どもたちを真ん中にして信頼関係を育んでいきたいと思う。
⑧食事への意欲と、共に食卓を囲む喜びを実感するために	⇒	食事の時間が楽しくなるような雰囲気づくり。また食事に対して抵抗がある子どもたちも安心して食事が食べられるように工夫していく。
⑨地域に開かれ、地域住民と交流を図るために	⇒	地域への行事を再開し、地域の方々との交流を積極的に行い地域の行事にも参加していきたい。

## 5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
環境構成、遊具、教材について	<p>各クラスで子どもたちの発達段階を踏まえた教材の準備が行われている中で今の子どもたちの興味関心にアンテナをはり、世界が広く、深まるような本や玩具また、経験できる機会を準備していく。 クラス内または園全体で玩具の見直しを行っていく。</p>
保護者対応について	<p>今年度の研修において子育て支援事業を含め他園の取り組みを知ることができた。その中で幼児園に合う形に変えて取り入れていきたいと思う。 今年度は年3回子育て支援事業を行い、回数を重ねるごとに子ども同士、保護者の方同士の繋がりがでてきた。今後も開催時期を検討しより多くの方に幼児園を知っていただけるようにしていきたい。</p> <p>働いている保護者の方はお迎えの時間もそれぞれの為、なかなか子育ての悩みなどを相談することが難しいと思うので、日頃から保護者の方々の話をよく聞き、コミュニケーションをとることで、子どもたちにとって良い関係性や子どもたちと過ごす時間の豊かさにつなげていきたい。</p>
行事について	<p>コロナウイルス感染症が5類に移行し、行事を行うことができた。その中でクラスの人数やカラー、一人ひとりの育ちをよく理解した上でその都度柔軟に対応する必要がある。(例年通りでなく見直していくこと。) また、今年度は園内での感染症の集団発生により大きな活動が延期になる事があった為に過密スケジュールになった。体調管理の難しさを感じた。ご家庭と密に情報共有を行いながら子どもたちの体調管理に気をつけていきたいと思う。</p>